

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 本校は、「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶をめざし、高い志と夢を持って、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。
- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる、リーダーシップを取れる人材を育成する。
  - 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
  - 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。

### 2 中期的目標

- 1 学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶
  - (1) 大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。
    - ア 新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導方法の研究を行なう。
    - イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。  
※2020年度において、国公立大学合格者現役20%以上をめざす。
    - ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。  
※2020年度において、一日平均学習時間100分以上(2年生10月)を維持する。
    - エ 「槻の木 NEXT STAGE」(企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など)の取り組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。
  - (2) 「規範なくして学力向上なし」を合い言葉に、高い志や倫理観と強い精神力を育て、学業と部活動・学校行事の両立のための支援と指導を行なう。また、安全で安心して学校生活に取り組める環境を維持、発展させる。
    - ア 学習指導・生徒指導・進路指導などの学校経営において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。  
※2020年度において、遅刻者数府内最少レベルを維持する。
    - イ すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
  - (3) グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶に向けて、学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木 NEXT STAGE」等の取り組みにより、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。
- 2 先進的で他をリードする学校づくり
  - (1) 強い組織力による学校力の向上をめざし、授業改善、生徒指導、進路指導に取り組む。
    - ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。
    - イ 先進校視察・研修参加と伝達研修・教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。
  - (2) 組織的な協働体制による学校運営の確立
    - ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に対応できるよう改善に努める。また、教員がより多くの時間で生徒対応できるように業務のスクラップ&ビルドを進める。
- 3 保護者・地域から信頼される学校づくり
  - (1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入りたい」「入れてよかった」と、地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。
  - (2) 広報活動、情報発信の充実に努め、保護者・地域との信頼関係を高める。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学力の向上と調和のとれた人格の陶冶】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員相互の授業見学の活性化、研究授業・研究協議とまとめの共有、授業アンケート結果の共有、研修・伝達研修等により教員の意識は向上し、「他の教員の授業を見学する機会」(教職員)100%(昨年94%)、「参加体験型の学習等、指導方法の工夫・改善」(教職員)73%(昨年66%)、「グループ学習等、学習形態の工夫・改善」(教職員)80%(昨年69%)であった。「授業は全体としてわかりやすい」(生徒)は、80%(昨年81%)であった。</li> <li>・「思考力を重視した問題解決的な学習指導を実施」(教職員)59%(昨年57%)、「評価の在り方について話し合う機会」(教職員)66%(昨年57%)にはまだ課題がある。今後も、新学習指導要領、指導と評価、高大接続改革に係る研修・研究と実践を進めていく。</li> <li>・「自宅で学習する習慣ができていく」(生徒)は68%(昨年59%)で、継続指導していく。</li> <li>・カリキュラムの検証と改善、進路実現に向けた科目選択に係る指導、説明会・個別面談・講習の実施等により、「自分の適性や進路に応じた科目選択ができる」(生徒)89%(昨年86%)、「進路に関わる説明会は参考になる」(保護者)94%(昨年84%)、「進路実現のための講習が充実」(生徒)83%(昨年78%)と満足度は向上した。</li> </ul> </li> <li>2. 規範意識、自尊感情の醸成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「規律を守った生活を送っている」は生徒94%(昨年96%)、保護者98%(昨年97%)であった。「学校生活についての先生の指導は納得できる」(生徒)73%(昨年73%)、「学校の生徒指導の方針に共感できる」(保護者)85%(昨年84%)と共に昨年と同様であった。</li> <li>・「学校はいじめなど私達(子ども)が困っていることに真剣に対応してくれる」は生徒81%(昨年82%)、保護者84%(昨年85%)、「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」(生徒)85%(昨年86%)で昨年と同様であった。</li> <li>・「今年の体育大会はよかった」は生徒71%(昨年77%)、保護者84%(昨年87%)、「今年の文化祭はよかった」は生徒71%(昨年79%)、保護者80%(昨年86%)であった。</li> <li>・今後も安全安心な学校づくりと共に、生徒の規範意識、主体性、自尊感情を育てていく。</li> </ul> </li> </ol> <p><b>【学校力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営ビジョンの明確化、進捗状況の共有、教職員の協働体制の推進、研修の充実等により「PDCAサイクルによる学校経営の推進」88%(昨年58%)、「日々の教育活動の課題を相談できる職場」74%(昨年66%)、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」64%(昨年39%)、「伝達研修の機会」81%(昨年47%)等、教職員の意識が向上した。</li> <li>・「充実した学校を過ごしている」は生徒85%(昨年86%)、保護者89%(昨年90%)、「入学して良かった」は生徒75%(昨年74%)、保護者90%(昨年89%)で昨年同様であった。</li> <li>・「先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている」生徒89%(昨年90%)、「学校は保護者の願いに応える努力をしている」(保護者)83%(昨年83%)であった。</li> <li>・今後も教職員の協働体制を推進し、教育活動の活性化と学校力の向上を図っていく。</li> </ul>	<p><b>【第1回7月21日】「平成30年度学校経営計画について」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動において槻の木高校独自の取り組みが多く、その特色を活かしているということがよくわかった。今後も、是非その特色を活かして、生徒を伸ばして欲しい。</li> <li>・槻の木は様々な取り組みを前向きにやられている。持ち帰り参考にさせてもらう。</li> <li>・人権教育も、障がい理解教育やいじめ防止等について取り組まれており安心した。</li> <li>・「槻の木 TIMES」(中学生向け広報紙)で生徒を前面に出すのは学校の中身が見えてよい。</li> <li>・ホームページの更新率を上げて、日々の活動の様子を紹介してほしい。</li> <li>・「槻の木 NEXT STAGE」の取り組みは、生徒の視野を広げ、職業の選択肢を増やすことができるので続けてほしい。</li> </ul> <p><b>【第2回11月2日】「授業見学」及び「学校経営計画進捗状況について」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を見て学習に集中している雰囲気であった。各教科の授業を公開していくことは生徒のためにもなるので、ぜひ今後もこのような機会を設けてほしい。</li> <li>・規律ある学校であってほしい。「信頼関係」、「規範意識」、「協働」を基盤とした学校運営に加え、教員間、教員と保護者とのネットワークを大切にほしい。</li> <li>・受験等の直近の目標をめざした学びと10年後の将来を見据えた学びの両方を今後も進めてほしい。</li> <li>・学校行事や部活動の様子をスライドショーで説明いただき、行事等を通して一つのものを創り上げていくことは、生徒の心の成長にもつながると感じた。</li> <li>・行事を見に来られる保護者も多く、学校に対する関心が高いと感じている。学校運営に関して、PTAとして支援していきたい。</li> <li>・施設設備で不十分などところについて、府教育庁と連携した対応をお願いしたい。</li> </ul> <p><b>【第3回2月8日】「平成30年度学校経営計画及び学校評価(案)、平成31年度学校経営計画及び学校評価(案)について」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度学校経営計画及び学校評価(案)は承認。</li> <li>・学習の定着、進路実現に向け、きめ細やかな指導がなされていることがよくわかった。</li> <li>・授業では最終目標と共にスモールステップも活用し、達成感、有用感を育ててほしい。</li> <li>・家庭学習の意欲を高めるためには、生徒自身が自習する意義を理解することが有効。</li> <li>・教職員が意欲的に働けばストレスは低いと同じように、生徒も心に不安があると勉強ができない。今後も安全安心な学習環境を整えてほしい。</li> <li>・生徒達の通学や授業の様子等について、表情や服装を含め、一生懸命過ごしている姿を実際に見ているが、先生方のご指導によるものだと思う。</li> <li>・カウンセリングマインドを持った指導を継続してほしい。</li> <li>・きめ細かな指導により、挨拶ができて遅刻をしない生徒が育っており、規範意識の確立が素晴らしい。いじめ防止やメンタル面での指導も今後も充実させてほしい。</li> <li>・文化祭での演劇等、皆で一つのものを作り上げる経験もいい取り組みだと思う。</li> <li>・NEXT STAGE等の生徒の学ぶ意欲を高める取り組みを今後も推進してほしい。・今後もオープンスクール等での生徒と中学生との交流・連携を推進してほしい。</li> <li>・保護者の立場から、生徒指導や進路実現等安心して任せることができ、入らせたい学校である。中学生には「厳しい」と感じて、入ってみると「あたりまえのこと」に取り組んでいる学校。中高生の交流の機会を持つことで、理解を広げてほしい。</li> <li>・ホームページやSNSを活用して、保護者や地域へ向けた情報発信を継続してほしい。</li> </ul>

## 府立槻の木高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識、自尊感情の醸成	(1) 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現  (2) 高い志の育成と規範意識、自尊感情、人権意識の高揚  (3) グローバル人材の育成	(1) ア・カリキュラムの検証を進めるとともに、「体験・発表型授業」を実施する等、主体的・対話的で深い学びの実現を進める。 ・「教科 Can-Do リスト」や「教科シラバス」の精査に努め、指導と評価に係る研究を進める。 ・新学習指導要領を研究し、本校のカリキュラム改編を進める。 ・生徒の学力を、学力生活実態調査、英語学力調査で分析し進路指導の参考とする。 ・職業観、勤労観育成のための取組を行うとともに、校内での大学個別説明会を行うなどして進路指導の充実を図る。 イ・生徒の学びに向かう力を育てるとともに、学力向上のための教員研修の充実、生徒面談の充実を図る。 ウ・課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る。 ・学校図書館の更なる活用等を通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 エ・「槻の木 NEXT STAGE」の取組を継続し、企業、大学、地域と連携した体験・発表型進路学習を行う。  (2) ア・遅刻数の府内最少レベルをめざす。 ・生徒の安全確保のため、自転車指導等の交通安全週間を設け、指導の充実を図る。 ・学校美化や教室清掃を習慣とし、学びの場としての学習環境整備に努める。 イ・保健課を中心に、相談室委員会、学年、教科担当者等が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。 ・安全で安心な学校づくりのための教職員研修を実施する。  (3) ・「槻の木 NEXT STAGE」の一環として国際交流に取り組む等、国際的な視野を育て、使える英語力の向上を図る。 ・学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木 NEXT STAGE」等の取組により、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。	(1) ア・学校教育自己診断で「カリキュラムに係る満足度」85%以上を維持。(H29:86%) ・学校教育自己診断で「授業満足度」80%以上を維持。(H29:81%) ・新学習指導要領や高大接続改革に係る職員研修の実施。 ・学習指導室(進路、教務)、学年が協力して、進路実現を支援する。 ・学校教育自己診断で「進路について考える機会がある」90%以上を維持。(H29:90%) イ・国立大学現役合格 15%以上。 ・面談回数年間総数約 1000 回を維持する。(H29:約 1000 回) ウ・一日平均学習時間 30 年度 2 年(10 月)、平日・休日平均 100 分。(H29:平均 94 分) エ・参加生徒の満足度 85%以上(H29:90%)  (2) ア・年間遅刻者数 600 人以下(H29:634 人) ・学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」生徒・保護者 95%以上の維持。(H29:生徒 96%保護者 97%) イ・保健課を中心とした教育相談体制の整備  (3) ・「槻の木 NEXT STAGE」でオーストラリアへの海外研修旅行を実施。 ・参加生徒の満足度 85%以上。 ・学校教育自己診断で「学校行事に係る肯定的回答」80%以上を維持。(H29 年 80%)	(1) ア・学校教育自己診断で「カリキュラムに係る満足度」(生徒)は 89%。(◎) ・学校教育自己診断で「授業満足度」は 80%であった。(○) ・生徒の進路実現のためのカリキュラムの検証と指導を推進した。今後も、新学習指導要領の研究、本校生徒の現状に合った科目編成を進めていく。 ・新学習指導要領に対応し、主体的・対話的で深い学びとなる学習指導を検討した。積極的に「発表する」機会を設け、それを積み重ねることにより情報発信力を育成し、主体的に学ぶ姿勢を育成する等した。 ・伝達研修「教育課程説明会(総則)」を実施した。(○) ・学習指導室と学年が協力し、学力生活実態調査、英語学力調査等を実施、分析すると共に、授業等の現状を含めて関係教員で協議、個別指導し、進路実現を支援。(◎) ・学校教育自己診断で「進路について考える機会がある」(生徒)は 93%であった。(○) イ・啫啄サポートも実施し、国公立大学現役合格者は 13.7%であった。(△) ・学習状況の把握や科目選択など進路実現に向けた生徒面談を約 2400 回(1,2 年各 720 回、3 年 960 回)実施。(◎) ・保護者向け進路説明会を学年ごとに実施。(1 年 151 名、2 年 112 名、3 年 134 名が参加)「初歩からの大学入試説明会」は 2 回実施した。 ウ・学習習慣定着のため、週末課題(1・2 年生英数国)、週テスト(2 年生英語)、毎日の学習計画表の提出等の取組を実施し、家庭学習時間は平日・休日平均 2 年生 95 分、1 年生 101 分であった。(△) ・年 10 回実施した一日勉強会には計約 1,300 名が参加。 エ・「NEXT STAGE」京都大学 iPS 研究所、同総合人間学部での体験型学習は、オープンキャンパスにない内容で満足度は 9 割以上。(◎) ・東京研修(東京外国語大学、東京証券取引所、国会議事堂、文部科学省、宇宙ミュージアム等)を実施。参加生徒の満足度は 100%。(◎)  (2) ア・入室許可証を用いた遅刻指導を実施したが、遅刻者数は 685 人であった。(△) ・年間 2 回の通学用自転車の整備チェック、交通安全指導を実施。 ・学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」は、生徒 94%(△)、保護者 98%(○)であった。今後も指導を継続していく。 ・PTA、地域、生徒、教職員が合同で校内での花苗植えを実施。 イ・保健課を中心として、教育相談体制を整備した。担任会等から生徒情報を共有し必要に応じてスクールカウンセラーとの連携を図ると共に相談室を設置した。(◎) ・スクールカウンセラーによる職員研修を 2 回実施。「支援教育推進フォーラム」「保健主事研修会(防災教育等)」の伝達研修を実施。 ・担任、教科担当者等が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関とも連携した個別の支援を行うために、配慮を要する生徒の支援会議を 7 月と 1 月に実施。  (3) ・オーストラリア研修は、事前研修「JICA 研修」「立命館大学留学生との交流」、事後研修「関西大学総合情報学部研修」と併せて実施した。生徒満足度は 100%であった。(◎) ・ペンパルの取組みでは、相手国との差異(勉強内容、日々の生活)に気付く等学びが深まった。今後はテレビ電話での交流等も行っていく。 ・今後も、生徒会役員を中心とした主体的活動の充実を図り、体育大会の種目や実施方法、文化祭の企画について、見直しと充実を図っていく。 ・学校行事等に生徒が自主的・協力的に活動できるよう担任を中心に指導し、校外学習後のアンケートでは全学年とも約 90%が「よかった」と回答、修学旅行(2 年)では 91%が「満足」と回答。体育大会、文化祭での生徒満足度は、それぞれ 97.5%、93.2%と極めて高かった。(◎) ・学校教育自己診断で「学校行事に係る肯定的回答」は 77%であった。(△)
2 先進的で他をリードする学校づくり	(1) 強い組織力による学校力の向上  (2) 組織的な協働体制による学校運営の確立	(1) ア・教科会を定期的開催して教科研修を行い、授業力の向上を図る。 ・教員相互授業見学、教員研修を行う。 ・授業アンケート結果を効果的に活用し、授業改善に取り組む。 イ・先進校視察・研修参加と伝達研修・教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。 ・日常的な OJT の推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・カウンセリングマインドのある生徒指導を推進する。  (2) ・学校運営を効率化するため、運営委員会中心の学校運営を推進する。	(1) ア・教員相互の授業見学、授業アンケート結果を踏まえた教科会での協議の実施。 ・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」68%以上。(H29:63%) イ・先進校視察、研修参加の増加。 ・伝達研修、教職員研修の実施 ・学校教育自己診断「生徒指導に係る肯定的回答」80%以上を維持。(H29:82%)  (2) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」70%以上。(H29:65%)	(1) ア・全教科前後期 2 回の研究授業・研究協議を実施、まとめを共有と共に、授業アンケート結果を共有する等授業力の向上に努めた。前期 86.7%、後期 87.7%の生徒が授業に対し肯定的な評価をした。(◎) ・授業アンケートは、めざす授業に応じた質問項目の変更を検討する。 ・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」は、76%。(◎) イ・先進校視察は経験年数の少ない教員が、総合的な学習、探究活動、新学習指導要領、防災教育等、教育実践に特色ある高校 5 校を訪問。(◎) ・教職員研修(1 月)では、外部講師による「生徒主体の学習～支援教育の視点を取り入れた授業づくり～」を実施した。(○) ・伝達研修として「個人情報の適正管理について」を 2 回実施。(◎) ・教育センターの研修では、悉皆以外で、インターメディアイト研修 1 名、アドバンス研修 4 名、英語セミナー 3 名等が参加した。(◎) ・学校教育自己診断「生徒指導に係る肯定的回答」(生徒)は 82%。(○)  (2) ・学年室を学校運営室に統合、業務の精査等より機能的な組織運営、協働体制の推進を図った。学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」は 67%であった。(△)
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	(1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入りたい」「入ってよかった」学校づくりの推進  (2) 保護者・地域との信頼関係の向上	(1) ・授業公開、体育大会、文化祭、個人面談、進路説明会、PTA 活動等を通じ、保護者の信頼をさらに得よう努める。 ・トイレ等の施設改善に努め、より安全な学習環境の充実に努める。  (2) ・学校教育活動の全般について、本校生徒・保護者、中学校、中学生・保護者、地域に発信し、信頼にたる学校づくりを推進する。 ・ホームページの充実、メールマガジンの発信などにより、学校教育活動への理解と信頼を促す。	(1) ・「入って(入れて)よかった」生徒 77%以上(H29:74%)、保護者 90%以上。(H29:89%) ・学校教育自己診断(保護者)「学校行事に参加したことがある」85%以上。(H29:84%)  (2) ・ホームページの適宜更新 ・メールマガジンのタイムリーな発信	(1) ・学校教育自己診断「入って(入れて)よかった」は、いずれも昨年度と同様で、生徒 75%(△)、保護者 90%(○)であった。 ・保護者の学校行事等参加状況は、体育大会 552 名(76.8%)、文化祭 567 名(78.9%)、修学旅行説明会 119 名、PTA 社会見学 78 名等であった。 ・学校教育自己診断(保護者)「学校行事に参加」は 94%。(◎) ・PTA、生徒、教職員が合同でトイレミーティングを行い、トイレ改修や清掃について情報共有し、改善を図った。 ・施設設備の台風での被害等に対して、教育庁と連携した改善を実施した。  (2) ・教育の見える化を推進し、学校リーフレットの刷新、槻の木 TIMES の発行、メビウスノート(生徒手帳/H31 年度より)の改訂等を行った。 ・校内での学校説明会は 8 回実施。参加中学生は 1 回平均約 100 人。 ・ホームページ更新は 90 回(12 月まで)(◎) ・メールマガジン毎週金曜日に 33 回発行(12 月まで)(◎) ・緊急時の安否確認ツールとしてメールマガジンを活用することとした。